

平成29年度 呉羽高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動（学習指導の充実）	
重点課題	・自主的学習習慣の定着と教科指導の向上	
現状	<p>①本校生徒の進学志望達成のためには、日々の授業を大切に、生徒が計画性をもって自発的に学習に取り組むことが必要である。しかし近年の調査によると、生徒の平日の学習時間は減少はしていないものの横這い状態であり、まだ不十分であるのが現状である。</p> <p>②教える側の教員自身も生徒にとって分かりやすい魅力的な授業を行うため、授業方法の改善と充実を図る必要がある。新学習指導要領に向けた主体的な深い学びを実現するために、従来の指導に加え、新しい視点を導入した指導が求められていることは教員間に浸透しているが、限られた実践ことどまっている。</p>	
達成目標	<p>①生徒の平日学習時間（授業を除く）</p> <p>1年生 2.0時間以上 2年生 2.5時間以上 3年生 3.0時間以上</p> <p>※年3回実施する学習実態調査のデータより</p>	<p>②生徒の学習状況の実態を把握・分析するためにアンケート調査を実施し「主体的に授業に取り組むことができた」と答えた生徒の割合</p> <p>③今年度の授業（実技・実習以外）において、アクティブラーニングを実践したことのある教員の割合</p>
	① 70%以上	<p>② 80%以上</p> <p>③ 80%以上</p>
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習生活実態調査、日々の授業や面接を通して生徒の学習状況を把握すると共に、生徒に自発的に学習する習慣を身につけさせ、学習内容の充実を図り、最低限の学習時間を確保させる。 ・各教科からの週末（週間）課題について、生徒が主体的に取り組むことが出来るように、その内容や分量の充実を図る。 ・「生徒学習記録表」を活用して、進路指導部や学年と連携しながら、生徒一人一人に合った学習内容の充実と学習時間増加推進に取り組ませる。個人面接等では、「生徒学習記録表」を見ながら指導を継続していくことにより目標達成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学期に「互見授業週間」を設定し、様々な授業を見学できるように、教科の枠を外して見学に行く。 ・「授業見学シート」に見学した授業を記入し、感想を授業担当者に伝える。 ・生徒に「学習・授業に対する自己評価」アンケートを実施し、学習時間では分からない学習状況の実態をとらえる。 ・生徒が主体的・対話的に学ぶことを目指してアクティブラーニングを意識的に授業に取り入れるよう働きかける。アクティブラーニングの実践例等を紹介し、授業実践の相互見学を通して理解を得られるように努める。
達成度	<p>①1年：達成できず（4月：68.7%、9月：39.6%、1月：41.3%） 2年：達成できず（4月：26.8%、9月：18.5%、1月：30.7%） 3年：達成できず（4月：24.7%、9月：50.1%）</p> <p>②「ほとんどの授業で」「多くの授業で」の割合（1年40%、2年38%、3年51%） 「教科・科目によっては」を加算（1年91%、2年86%、3年96%）</p> <p>③達成できず 66.7%</p>	
具体的な取組状況	<p>①学習時間調査、学年集会、面接、質問教室などを利用し、各学年が生徒の学習に対する意識の高揚を図っている。</p> <p>②・③主として、教員の授業を改善する面からの取組である。5月の1週間と11月の1週間に、互見授業週間を設けて先生方に呼びかけた。また10月に行われた「学校訪問」を機会に、生徒にアンケート調査を実施し、研究授業、公開授業では「主体的・対話的で深い学び」を意識して立案、実施するよう呼びかけた。</p>	
評価	① C	<p>①1学年では、学習時間2時間以上が4月・9月・1月とだんだん減少している。これは昨年と同じ現象であるが、全体的に昨年より時間が減少した。2学年でも同様に4月より9月が減少しているが、1月には増加に転じている。また昨年より全体的に学習時間が増加した。3年では目標には届かなかったが、4月から9月にかけて大きく増加した。</p>
	② C	②9割の生徒が主体的に授業に臨んでいるが「教科によっては」という条件付きであった。
	③ C	③学校訪問など機会はあったが80%には及ばなかった。具体的な働きかけが不足していた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい授業の提供が重要であり、今後も互見授業等を通じて指導方法の改善を図って欲しい。 ・部活動等もあり学習時間目標の達成は困難だと思うが、これまで通り口うるさく言い続けることが大切だ。 ・アクティブラーニングは社会において必要なスキルを身につけることにつながるので、積極的に導入して欲しい。 	
次年度に向けての課題	<p>① 学年、教科担当が学年集会や面接などを活用して、生徒の学習習慣の改善を図り、自発的に学習する習慣を身につけさせる。また、部活動やレッスン等で十分な時間が確保できない場合は、学習の質を高めることで時間の不足を補うよう指導する。</p> <p>②生徒に実施したアンケート結果の分析を活用し、主体的な学習態度を育てるための方策を具体的に考える。</p> <p>③授業方法改善のため、学校外での研修を報告してもらうことで職員間の情報の共有を図るなど、「互見授業」以外にも方策を検討する。</p>	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成29年度 呉羽高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	① 「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「服装」を正しく着用する生徒の育成。 ② スマートフォン・携帯電話について、節度のある使用が自主的にできる生徒の育成。	
現状	①過去3年間にわたり、継続して「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきた結果、生徒たちの挨拶は少しずつよくなっており、服装についても全体に落ち着き、よい傾向にある。ただし、この状態をさらに高めていく意識がなければ、せっかく醸成されてきた校風を崩してしまう恐れがある。 ②昨年度実施したアンケートによると1日(平日)スマートフォンまたはフィーチャーフォンの平均使用時間が3時間越えの生徒は入学して学期が進行していくたびに増え2年1学期8%が一番多く、2学期以降減ることが分かった。90分越えの生徒は学期進行では大きく変わらず35%前後で3年になって減っていくことが分かった。	
達成目標	①生徒の自己評価について〈5：いつもきちんとできる、4：だいたいいつもできる〉の割合。 ・【挨拶】「授業」60%以上、「校内」70以上。 ・【服装】男子80%以上、女子70%以上。	②平日のスマートフォン・携帯電話の使用時間について90分以内の使用者の割合。 1, 2年生では80%以上、3年生では90%以上
	<ul style="list-style-type: none"> 朝、生徒指導部と各学年が連携して、生徒玄関や学年の廊下で生徒に挨拶をする。 職員会議や生徒議会などを通して、挨拶のできる呉高生の意識を共有する。 授業の始まりや終わりの挨拶をよくなるまでやり直させる。よくできたら褒める。 校紀委員会を活用し、標語を募集したり、さわやか運動に積極的に参加するよう促す。また、クラス内でも服装や挨拶に気をつける雰囲気作りに努めさせる。 各学期の始めと中頃に2回、各学年で一斉服装頭髪指導を行い、落ち着いた学習環境を維持することに努める。 必要に応じて、個々の生徒の状況に応じた個別指導を担任と連携して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のスマートフォン使用状況について詳細な調査を行う。調査の結果を生徒に伝達し、自分たちの使用実態について自覚させるとともに、HR活動で結果について話し合う機会を持ち、改善点や改善方法について自分たちで考えさせる。 定期考査前にはスマートフォン使用時間の低減を呼びかけるスローガンを校紀委員に伝達させ、自主的に使用の制限をするよう働きかける。 1年生に「スマホケータイ安全教室」を実施し、SNS使用の危険性について専門家の講話を通して指導する。 教科「情報」の教員と協力し、情報モラルやセキュリティの意識の向上を図る。
達成度	挨拶の自己評価 授業 63.0%・校内 69.5%(1期) 授業 63.1%・校内 67.4%(2期) 服装の自己評価 男子 78.7%・女子 80.5%(1期) 男子 73.3%・女子 68.5%(2期)	スマホ携帯の使用時間90分以内の割合 1年 54.8%(1期)、50.9%(2期) 2年 60.3%(1期)、52.1%(2期) 3年 71.2%(1期)、75.8%(2期)
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の始めと6月の「さわやか運動」期間中に「挨拶・服装マナーアップ週間」として全教員が生徒玄関、廊下、教室等で指導を行った。 挨拶・服装について本校の方針を職員会で提示し、全職員の共通理解を図った。 毎朝、生徒玄関に立ち、挨拶と服装について粘り強く声かけを行い、指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年は、HR活動においてアンケート結果を基に話し合いを行い、各クラスごとに「スマホ3ヶ条」を作成・掲示した。 校紀委員会で呉羽高校のネットルール（スローガンとルール3箇条）を作成し、廊下・各クラスに掲示した。 全校集会でスマホの節度ある使用の必要性について指導した。
評価	① B ② C	①1学期から2学期にかけて自己評価が低下したが、昨年度の自己評価と比較すると上昇している。 ②1学期から2学期にかけて変化を見ると、1, 2年生は90分以内の生徒が減少し、3年生は増加した。昨年度に比べると全学年90分以内の生徒が減少した。
学校評議員の意見	挨拶や服装については、概ね良好な状態であるが、基本的なことなので、より一層の意識向上に努めていただきたい。スマホの利用状況については、時代の変化を考えれば仕方ない部分もある。余暇時間全体を捉えて、その時間配分がうまくいっていれば、90分の制約にこだわる必要はない。	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、服装ともに生徒の意識が昨年度に比べて向上したが、まだ、目標値に届かない。 スマホの使用時間だけでなく、動画視聴時間、SNS利用などについて、より詳しい実態を知り、自分自身で制御できるように対策を考える。低下したことを反省し、改善の意識を持たせるよう取り組む。 	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成29年度 呉羽高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導の充実）	
重点課題	進路意識を高め、進路目標の実現に向けて学力を向上させる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己の能力や適性を的確に判断しようとする意識や、将来の進路に関する目標設定が低く、そのため学習への意欲が弱く取り組みの甘い生徒が多い。 生徒一人ひとりがまず自分をよく知り、将来の進路への意識を高め、主体的かつ持続的に考えながら選択し、目標実現に向けて努力していけるようにすることが最も大切である。 そのための方策を系統立てて明示し、学校生活の中で時期を意識しながら伝えることや、学期の進行や学年進行とともに進路意識を醸成させられるような支援システムを構築する必要がある。 	
達成目標	① 3年次の進路志望実現の達成	② 進路行事等を契機として自己の進路の明確化がなされた生徒の割合
	進学率90%以上	(ア) 進学希望か就職希望かの決定率 全学年、10月時点で100% (イ) 進学希望者は志望学部・学科の決定、就職希望者は希望職種の決定の率 3年生は10月時点で90%以上 2年生は10月時点で80%以上 1年生は10月時点で70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○3年進級時に、早期に進路志望を明確化し、計画的に学習するよう助言する。最終的には1月に出願校を検討し、出願校決定と進路実現率の関係を調べる。 ○3年間を通した計画的な進路指導を行い、生徒・学校・家庭が一体となり、進路志望実現を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年・・・生活習慣や学習習慣を確立させる。「総合的な学習の時間」等で進路研究を行い、自己理解や適性を把握させる。 ・第2学年・・・進路研修旅行等を通して大学や学部について研究し、自己の適性をふまえた進路選択ができるよう指導する。 ・第3学年・・・高い進路志望を持ち、実現できるように長期・中期・短期の学習計画を立てさせ、意欲を持続させる。 ○学習記録表を活用し、家庭や部活動顧問の協力を得て、学習習慣や生活習慣の見直しを自らさせる。 ○校内模試や外部模試を有効に活用し、結果を模試検討会で分析しながら教員間で情報を共有し、事後の指導に活かす。 ○3年生の個別指導（教科添削、小論文、面接）を徹底する。 ○入試問題研究を行い、授業力の向上に活かす。 ○入試動向を調査し、それらをもとに本人の適性や成績・意欲などを総合的に勘案し、適切な志望校選択を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漠然とした進路希望を持つ生徒や、進路選択に悩む生徒が自己の適性を知り、自分の将来について主体的に考えられるような機会を設ける。 <p><u>第1学年での取り組み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「職業を語る会」で保護者やOB・OG等身近な人から話を聞き、文理選択など将来の進路について考えさせる。 ・「卒業生と語る会」で卒業生の体験をもとに進路や生き方について話を聞き、高校生として今なすべきことを考えさせる。 <p><u>第2学年での取り組み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学招請講義」で自分が興味関心のある講義を実際に受講し、学部・学科選択の一助とさせる。 ・「合格体験報告会」で先輩達の進路への心構えや学習法などを実際に聞き、新年度に向けて学習への意欲を高めさせる。 <p><u>第3学年での取り組み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR、学年集会や外部講師による進路講演会等から、具体的な進路情報を得て、進路志望実現に向けて主体的に学習に取り組ませる。
達成度	86.0%	(ア) 3年100%、2年97.6%、1年99.6% (イ) 3年89.8%、2年84.0%、1年50.6%
具体的な取組状況	上記方策については概ね実行した。ただし、生徒個々による学力差や進路実現に向けての意識の強弱があり、最後まで前向きに取り組みきれない生徒もいた。	各学年上記の方策に加え、学年集会、HR、総合的な学習の時間、個別面談等で自己の進路について考える機会を数多く作ってきた。
評 価	C：現状維持	(ア) B：ほぼ達成した (イ) C：現状維持
学校評議員の意見	早期に具体的な進路を決定し、進学後や成りたい自分のイメージを明確にすることが、学習意欲の向上や夢の実現に繋がるので、自発的な動機付けや意識付けができるような取り組みの拡充が必要である。	
次年度に向けての意見	進学と決めたものの、受験勉強の開始時期が遅く、学力不足により志望に沿った出願ができない生徒が多かった。また、記述力が不足し、押さえとして考えていた学校に合格できない生徒が多かったことも、次年度へ向けての課題である。	1年生は文理選択直前の調査だったが、約半数が学科を絞り込めていなかったため、学部学科研究と面談をより強化していきたい。

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成29年度 呉羽高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（生徒会活動の周知と行事の一層の充実）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の広報活動を充実させ、生徒会と一般生徒や教職員との協力・連携を強める。 ・生徒の行事への積極的な参加を促すと共に、行事の内容を深め、より生徒の充実感を高める。 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒会は積極的に活動し、各行事での中心的な役割を果たしている。しかし、一般生徒や教職員にはその活動内容が見えていないことも多い。生徒会の広報活動を通じ、生徒会の活動を生徒・教員に理解してもらい、互いにできることを考え協力し合うことで、より良い行事にすることができる。 ・本校生徒の行事満足度は高く、学校生活の充実につながっている。生徒会や各実行委員会も活動しており中心的なリーダーの活躍もみられる。しかし、一方では行事の参加意識や関わり方には違いが見られる生徒もいる。より生徒の興味・関心を高め、参加意識を向上させ満足度や充実感を一層向上させたい。 	
達成目標	① 生徒会の広報活動の回数	② 行事に充実感をもてた生徒の割合
	「たより」発行 年5回以上 掲示板の更新 随時 HPの更新 行事前後	80%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の活動内容と各行事の状況等を「たより」や掲示板、HPを通じて発信する。 ・生徒議会や生徒総会で生徒会の活動内容を伝え、生徒や教職員の理解を深める。 ・必要に応じてアンケート等を利用し、生徒の要望や行事の意見等が生徒会に伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを実施し行事に生徒の意見や要望を積極的に取り入れ参加意識を高め、事後アンケートでは次年度に向けて行事の改善を図る。 ・HR活動などを通じ、生徒の自主性を生かした運営を重視し指導する。 ・計画から運営まで主体的に取り組めるリーダーを育成する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・「たより」発行 6回 4月・6月・10月 11月・2月・3月 2月(部活動予算)、3月(生徒会活動まとめ)について発行する予定 ・掲示板 年間通して十分な活用状況にはならなかったが、様々な活動内容を生徒に伝えることができた。 ・HP 各行事の案内、写真の掲示を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会83% 1年83% 2年80% 3年86% ・芸術祭93% (合唱コンクール95%) 自ら積極的に参加できたと感じている生徒が多く、各企画の充実感も高かった。 ・球技大会80% 1年84% 2年77% 3年80%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「たより」では、各行事の詳細や進行状況、また終了後のアンケート結果などを載せ、生徒会の具体的な活動内容を生徒に伝えることができた。 ・掲示板で、各団の紹介(体育大会)、各クラスの企画内容や部活動の発表内容(芸術祭)など、各行事の見どころを掲示することで、生徒の関心・参加意欲につながった。 ・年間計画を立て、掲示板・HPの活用方法を工夫することが必要である。 ・アンケート結果を基にした検討の充実、生徒議会総会への反映に至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事におけるクラス代表や行事実行委員が中心となり、互いに協力し主体的に取り組めるよう実行委員会などでの話し合いを重ね、生徒会との連携をもった。また、学年・担任の協力により、HRや課外活動が活発に行われ、各行事の内容の充実、生徒の参加意欲の向上、リーダーの育成につながった。 ・体育大会では、全体的な充実感・満足度はほぼ達成しているが、自ら係や競技に積極的に参加している生徒は67%程度である。 ・球技大会では、競技種目によって参加意欲に差がみられた。
評価	B	B
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら発信し行動することはできるが、意見をまとめ集約、反映する力が足りないようである。様々な媒体が利用できるのに、掲示板やHPの更新に重点を置いてよいのではないかと。 ・行事の参画意識は高く出ているので、引き続き継続して行えばよいと思われるが、何事もやらされ感があるのでは充実感を得るのは難しい。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・より一層の学校全体の活性化、生徒会活動や行事に対する生徒一人一人の関心・意識を向上させるために、掲示板、HPの活用を工夫し広報活動の充実を図る。 ・各行事において生徒の関心・興味などの実態の把握と、より充実した企画・運営の検討を行う。 ・HR活動の活性化のため、年間計画を学年・各分掌と調整する。 	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成29年度 呉羽高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動（図書館指導の充実）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の読書意欲を高め、豊かな知性と感性を育む。 ・学習情報センターとしての機能の充実を図り、生徒の利用を促進する。 ・音楽コースがある進学校という本校の特色を生かした図書館運営を目指す。 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・年に本を全く読まないという不読者が10%程度おり、3冊以下の割合も半数近く存在する。 ・学習情報センターとして利用に加えて心の居場所として図書館のより一層の活用が望まれる。 	
達成目標	① 年間の読書冊数3冊以上の生徒の割合	② 1か月平均の図書館入館者数（のべ人数）
	60%以上	480人以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2学年を対象に「読書の時間」を年2回設定し、「社会を知るための読書」をテーマとして新書やブックレットに親しむ機会を設ける。 ・1,2学年を対象に「HR読書会」を年1回実施し、多様な考え方を認め合うとともに、読書へのきっかけ作りとする。 ・全学年を対象に「小論文対策図書案内」を作成し進路実現の支援を図る。 ・読書感想文・感想画コンクールを実施する。 ・図書委員が、テーマ展示や図書館フェアを企画・実施し、併せて生徒が共感できるターゲットを設け、それに即した本の紹介をする。 ・「図書館だより」を毎月発行し、推薦本・新着図書・学習関連本などを知らせる。 ・新着本やテーマ本の配置を工夫し、本が生徒の目に入りやすいように配置する。 ・生徒の貸し出し冊数等をクラスごとにグラフ化し掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書を充実させるとともに、本以外のメディアに対しても積極的な収集を図り、多様なニーズに応えられる資料収集に努める。 ・各教科・学年・各分掌・部活動との連携を図り、積極的な図書館の利用を推進する。 ・図書委員会の活性化を図り、図書館フェア・店頭選書など各行事に主体的に取り組みせ、一般生徒の図書館への関心・理解を深める。 ・年2回教養講座を開催し図書委員以外の幅広い生徒の参加を呼びかける。 ・学校ホームページに図書館からのお知らせ欄をつくり、新着本の紹介や図書館だよりを掲載する。 ・PTA役員に働きかけ、本の紹介や読み聞かせ等のボランティアを依頼する。 ・館内に落ち着いた音楽を流す等して利用者が落ち着ける雰囲気を作る。 ・ミニコンサートや歴史講座などを実施する。 ・図書館入口スペースの有効活用をはかる。
達成度	① 82.9%（「読書傾向調査」の結果）	② 600人（4月～1月）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は7月・10月・12月に2年生は10月・12月に「読書の時間」を設定した。また、読書週間期間中に「朝読書」を実施した。 ・3学期HR読書会では1・2年生ともにビブリオバトルを実施し、本の紹介を通して友達とコミュニケーションする機会を作った。 ・夏休みの課題を3冊の読書報告・読書感想文・感想画コンクールの選択制とし、読書量を増やすことを目標にした。 ・2学期「様々な学習方法」をテーマに図書館フェアを行った。図書委員がポップを作成、内容を展示・発表した。 ・「2018年度入試小論文を書くために読んでおきたい本リスト」を作成し、全校生徒に配布した。 ・「図書館だより」を発行し、先生方による本の紹介や図書委員のお薦めの本を加え、生徒の関心を惹くようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月図書館利用のオリエンテーションを実施して利用の仕方について周知徹底した。 ・第1回教養講座：今年度初めて実施される海外研修に向けて、中野先生に「住んでみてわかったアメリカ」のタイトルで講演してもらった。 ・第2回教養講座：富山短大から講師を招き「受験数学でない数学」を実施した。 ・図書館フェア「今からでも遅くない、効果の上がる勉強法」を実施、同時に感想画コンクールの入選作品の展示等も行った。 ・インターネット等、パソコン利用の利便性の向上を図った。（無線LAN環境の改善） ・芸術祭の企画「名探偵コナン+演奏会」を図書室で実施、多くの来場者があった。 ・昼休み・放課後、学習活動に利用する3年生が大変増えている。
評価	<p>① A 達成した。夏の課題を3冊の読書報告とした、電子本等もカウントしたことが良かった。</p> <p>② A 達成した。各学年（特に3年生）の学習室としての利用が大幅に増加した。</p>	
学校評議員の意見	本を読むことは考え方や知識を高めるために重要、もっと読書冊数の目標設定をもっと高く設定した方が良い。読書の時間の取り組みやビブリオバトルの開催は良い試み、今後も工夫を図ってほしい。	
次年度に向けての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・平均読書冊数、読書時間ともに少なく、本を読む力が落ちていると感じる。 ・生徒同士が本を通してコミュニケーションができる機会を今後も取り入れていきたい。 	

平成29年度 呉羽高等学校アクションプラン - 6 -

重点項目	その他（保護者・生徒・教職員・地域との連携）	
重点課題	・本校教育活動とPTA活動の連携を図るとともに、地域の声を聞き、開かれた学校づくりに努める。	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者との関係は良好であるが、各行事への保護者の参加は多くない。 ・SPTA懇談会は、年2～3回の開催であるが、呉高芸術祭の食堂運営、生徒の生活実態等について、生徒・保護者が意見交換を行う大変有意義な機会となっている。 ・ホームページへの行事の掲載率は90%程度と高いが、更新時期が遅れたり、更新されていないものもある。中学生や地域の方から頻繁な更新を望む声も聞かれる。 ・ホームページに生徒・保護者・職員限定で閲覧できる学校行事の写真集「ギャラリー」を3月より開設し、1年間の生徒の活動を紹介している。 	
達成目標	①PTA総会・役員会・SPTA懇談会等の出席率	②本校の学校行事等について、ホームページの更新を概ね2週間以内に行い、校内外へのタイムリーな広報に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会員対象行事は出席率30%以上 ・PTA役員対象行事は出席率50%以上 	・学校行事の概ね2週間以内の更新率70%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動のパンフレットやホームページを通して各行事の様子を知らせる。 ・PTA行事の案内が保護者に伝わるよう、各学年と協力する。 ・SPTA懇談会については、特活部・健康指導部等の関係部署との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の担当者へ事前事後の更新を促す。 ・PTA会報「三陵」にホームページやギャラリーの更新についての案内を掲載する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会員対象行事の出席率 25.0% PTA総会 : 34.8% PTA講演会 : 15.2% ・PTA役員対象行事の出席率 65.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載を予定していた学校行事の掲載率は、71%にとどまった。 ・2週間以内の更新率は61%であった。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事の案内状が保護者に伝わるように学年と連携した。PTA総会への返答率は97%であった。 ・PTA講演会は、(株)メンタリスタ代表 大儀見浩介氏を招き、メンタルトレーニングに関する講演をいただき、104名の参加があった。 ・生徒生活・芸術祭実行・三陵編集の各委員会への参加率が非常に高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事については担当者へ写真撮影と記事作成を依頼し、掲載を促した。 ・PTA会報「三陵」にはホームページやギャラリーについての案内記事を掲載した。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ① B ② C 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会員対象行事の出席率は目標を達成したが、PTA会員対象行事の出席率は昨年並みにとどまった。 ・予定していた学校行事の掲載率は低調だったが、校外での活動報告（音楽・書道等）の掲載は迅速に行われ、掲載数も多かった。 ・記事のほとんどは2週間以内に掲載した。しかし、体育大会や芸術祭などの大きな行事の掲載は写真の選定に時間を要し、掲載が遅れた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA講演会の参加者が少ない。PTAのニーズを掴み、出席率向上に努めてほしい。 ・学校のホームページは正確性と迅速性、内容の充実が求められる。工夫してできるだけ新鮮な情報を掲載できるように努めてほしい。 ・不測の事態（ミサイル・台風・大雪）に備えて緊急連絡体制を整えてほしい。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA講演会については出席率の向上に加えて、参加者の満足度アップをめざす。保護者に興味関心を持ってもらえるテーマ・講師を選定する。 ・行事の報告やギャラリーの掲載を迅速にできるように、写真データの収集方法を工夫する。 ・不測の事態の際の緊急連絡体制については、ホームページや教育安全メールを活用し、保護者へ教育安全メールへの登録を呼びかける。 	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった